



全国連合退職校長会

会報



巻頭言

健康寿命を延ばそう

副会長 (四国地区)

石川 和幸

一 はじめに

令和六年の元日に「能登半島地震」がありました。

甚大な災害になった石川県の会員の皆様方に対して心からお見舞いを申し上げますとともに、一日でも早く復興できることをお祈りいたします。

二 会員数減少の要因

会員数は全国的に見ても年ごとに減少傾向にあり、これからの傾向は続くと思われ、徳島県を例に挙げると、令和五年度をもってある組織体(郡市)が退会することです。五年度の会員数は八十六名ですが、その退会の理由は、総会にしても、他の事業を計画しても参加者が役員だけでなく他の会員はほとんど出席しない状況にあり「この会の意味・存続に価値を見出せない」ということであつたようです。会員が行事・その他の

活動に関わっていく人数が減少していくのは、会員の高齢化が進んでいることがひとつの要因ではないかと思えます。

会員の中には、「足・腰が痛くて杖をつけて歩くのがやっとです」という人、「毎日、病院通いです」という人など身体的に苦痛を感じている数が年ごとに増加していく傾向にあります。その逆に、新加入の会員は、退職者の数がだんだん少なくなっているのです。若い会員数が増えない現状です。総会とか事業に出席したくても「体がついていない、他の人に迷惑がかかる」などの理由で参加ができない人が多くいるようです。高齢者は、特に健康寿命を延ばすことが、これからますます大切になっていくと思われ、会員が多く出席して活動するのは、会員相互の結びつき・関りを深めていくこととなります。

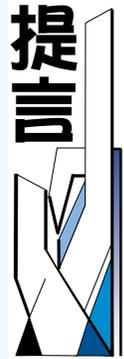
三 健康寿命を延ばすために

健康寿命とは自分で歩き、何事も自分で判断でき、人の力を借りなくても自分で身の回りの整理・整頓ができるという年齢のことです。その健康寿命を延ばすためには、次のことに気をつけて生活をしていきたいと思えます。

① バランスのとれた食事
毎日、定期的に食事が美味しく食べられることが大事です。食事が健康観察の第一歩。

② 適度な運動
毎日の散歩・自分の力量にあわせたジョギング等、定期的なテニス等のスポーツをする。

③ 社会性が重要
今までに県とか支部の退職校長会の総会・行事・親睦旅行・遠足などに参加したことがない会員がたくさんいるのではないのでしょうか。
一度でもよいから出席・参加をしてみたら、新しい何かを得ることだと思えます。思い切つて出席しましょう。参加して人との関わりが健康寿命に繋がると思えます。



「退職校長会の在り方を考える」

副会長（九州地区） 今村 統嘉

今年の元日に起きた「能登半島地震」の悲惨さに絶句し、被災地、被災者の方々に心よりお見舞い申し上げます。この大震災から深く学び、学校教育基本計画に最優先に「命の安全・安心」が挙げられると思います。

さて、すべての社会・経済活動が急激に変化し、予測不能な時代が進行しています。変化と主体的に向き合い、自らの可能性を発揮し、ウェルビーイングな社会と人生の創り手となる力を育む教育の実現が強く求められています。

そこで、佐賀県退職校長会は、社会の一大転換期の今、本県教育の振興への寄与、会員の親睦・福祉の増進と共に学校の応援団として貢献していくには

どのような組織に生まれ変わる必要があるのかという命題もつて、「佐賀県退職校長会在り方検討会」を立ち上げました。令和四年度～五年度に在り方検討会を開催して提言書を策定し、令和六年度より提言の実現を目指し活動を展開します。

〈主な提言として〉

提言1 「人材バンクの充実」

提言2 「各支部のグラウンドデザインの再構築」

提言3 「行事・活動日を土曜日・日曜日に設定」

提言4 「県グラウンド・ゴルフ大会の支部担当開催」

提言5 「県退職校長会のホームページの開設」

終わりに、在り方検討会を通して学ぶことも多く、改めて退職校長会会員が、本会の存在意義を再認識してさらなる「継続と発展」を持続可能なものとしていくことへ繋がることを期待しています。

定年延長と新会員の勧誘

副会長（近畿地区） 中室 清文

持続可能な組織づくりにおいて会員数の確保は必要不可欠である。しかし、現状は学校数の減少、退職後の再任用の増加などにより新会員の入会率は毎年減少している。奈良県の現状を見ると今年の入会率は48%まで減少し、危機的な状況である。

その上に、本年度より実施された定年延長で今後10年間は2年に1度しか定年退職者がいなくなる。また退職定年で校長は60歳で退任し、延長された期間

は別の役職につくことになる。こうした状況で、「いつ入会勧誘を行うのか」が本年度の大きな課題であり、本県においても役員会等で論議を重ねてきた。その結果、定年退職を待たずに役職定年で入会を勧誘することにした。課題として多くのことが予想される。

一つは定年退職までの残された期間を勤務しながら会員として参加していただけるかという心配がある。行事の休日開催、会報やHP充実、会員の交流の場の確保などが必要になってくる。

二つは役職定年の校長に早くからアプローチし、人間関係を深めることが大切である。現職との交流会や学校訪問の機会を積極的に設ける必要がある。

これ以外に多くの課題も出てくるが、退職校長会の存続のため一人でも多くの入会を目指して長い目で粘り強く勧誘していかなければならない。

近畿地区の来年度の研究協議会は「これからの時代を着実に進む持続可能な組織づくりと定年延長に伴う新規会員の確保について」である。近畿6府県での実践的な取組を発表し合い、より効果的な新会員の勧誘方法を学び合いたいと考えている。



関東甲信越地区

期日 10月26日(木)
会場 ホテルポートプラザちば
出席者 81名

協議内容
協議題「退職校長会の存在感を高める活動を広げるにはどうしたらよいか」―「魅力ある会」の構築を目指して―

共通課題Ⅰ 教育現場や教育関係団体との交流や支援活動
・現場への支援では、会員の再任用等により教員の持ち時間数の減少、専科指導教員導入の拡大などの成果が報告された。また、将来を見据えた学校教育の課題に応えられる支援のありかたの必要性、県や市町村が取り組む「児童生徒への教育支援事業」に積極的に協力する事の大切さなども話題になった。
共通課題Ⅱ 役員と一般会員との意識の差や会員の年代別意識の差を埋めていく工夫

・役員のなり手不足、活動への参加者の減少や固定化、さらには、退職間もない若い世代の所属意識の低さが課題として報告された。そのような課題を解決するために、諸行事の開催を可能な場合には土・日曜に設定したり、「活動の見える化」に取り組んだりしている事例も発表された。何より、現職期からの交流が大切という意見が多かった。

共通課題Ⅲ 福利厚生事業、生きがいを持てる活動の工夫

・会員が生きがいを持って活動に参加できるよう、人材バンクや教育サポートセンターの設立を通して、要請内容と会員とを結ぶ活動や、既存の事業活動に縛られない柔軟な活動を取り入れることの大切さなどの発表があった。

共通課題Ⅳ 会員相互の交流を図る広報活動

・会報やホームページによる県内各地区活動紹介、会員が常々実行している健康法、随想、近況報告、昔の思い出などが好評との報告があった。

東海北陸地区

期日 11月9・10日(木・金)
会場 ホテル金沢
出席者 33名

協議内容
協議第1「定年延長に伴う加入勧誘の時期及び加入促進の方策について」

各県とも60歳の役職定年時に加入勧誘し、その方策として文書や電話も有効だが、該当者と知己の支部役員の面談での勧誘が最も有効との結論でした。さらに現職校長に本会の活動を理解してもらい、日頃からの交流・人間関係作りが大切であるとの意見が出ました。

協議第2「コロナ下における本会目的遂行のための具体的活動について」

活発な支部活動(総会・懇親会の開催、会報・文集の発行、現職校長との話し合い、研修旅行等)、県教委との懇談、県教委講師による出前講座、学校支援ボランティア等が実施されて

いました。
全連退への要望・提言など

・郵送料削減のため、年4回の全連退会報を3回にしてほしい。
・経費削減のため、「リモート会議」導入も検討してほしい。
・東海北陸協議会の簡素化を図ってほしい。
懇親会

4年ぶり開催の懇親会では、大いに胸襟を開き親睦を深めました。

教育視察

2日目の教育視察は、斬新な設計デザインの県立図書館に心を寄せていただき、「三の丸収蔵展」を開催中の国立工芸館・県立美術館では本物の伊藤若冲に触れ感激していただいた次第です。

結び(東海北陸大会の意義)

・各県の抱える現状・課題を共有し、自県の課題解決の一助とする。

・7県が一丸となり東海北陸地区が全連退の中で発言力のある大きな存在感を示していく。



通常通りできることへの感謝

宮城県退職校長会

会長 太宰 明

元日に発生した能登半島地震による被害の大きさと深刻さは、東日本大震災を経験した者にとって大変心が痛みます。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

本会は14支部で構成し会員2千名、2年後に60周年を迎えます。本年度は東北地区退職校長会協議会宮城大会を主管し10月12日に開催しました。コロナ感染防止の観点から昨年同様一日開催でしたが、「デジタル化の推進」「役職定年制に伴う新入会員の勧誘」等の課題及び協議題「充実した生き方や地域の教育・文化の向上に資する活動はどうあればよいか」について情

報交換を行いました。今後の各県の活動・運営に資する有意義な内容であったと思っております。「東北はひとつ」を実感できた大会でした。

今年度は、コロナ禍で3年間中止になっていた「新入会員懇談会」「みやぎ教育の日推進大会」「各地区役員との教育懇話会」を4年ぶりに開催できました。「新入会員の交流が連帯感を高める一歩」「県民総がかりで子供を育てる気運醸成の一助」「役職定年時を勧誘時期とすることを確認」が成果としてあげられ、改めて各事業の意義を認識したところです。全事業を予定通り行い、県全体として一体感を持って組織の充実強化を図ることができました。通常通り事業が実施できたことに感謝の一年でした。

会員減少等、様々な課題がある中、コロナ禍で疎かになった「人と人とのコミュニケーション」を大切にしながら、本会の存在意義を追求し、会員と共に

充実発展に取り組んで参ります。
群馬県退職校長会活動状況

群馬県退職校長会

会長 立見 康彦

群馬県退職校長会は、群馬県内の郡市ごとに13の支部組織を構成して活動している。発足以来、会員相互の連携と親睦を図ること、本県の教育振興に努めること、各種教育関係団体との連携を密にするなどを目的に活動を推進している。講演会、クラブなど趣味の活動、教育ボランティア、広報活動など各支部とも工夫して活動している。

全県的には、総会や「ぐんま教育の日」推進大会、宿泊研修会、現職校長との交流会の開催、会報、会誌の発行などである。入会率の低下は、コロナ禍で活動ができなくなってきたことから顕著になってきている。退職校長会の魅力は活動があつてこそ発揮されるものである。そこで、現職校長会と退職校長会の交流会について、今年

以前に戻って開催できた。また、「ぐんま教育の日」推進大会については、連携教育関係団体を増やして開催できた。また、連携する際に教育関係団体との交流を充実させた。

2年前から新任校長を訪問して記念品を添え祝意を表した。加えて、今年には退任校長に対しても同様にした。また、今年から現職校長会の総会に対して、退職校長会から祝電を出すことにした。各支部において現職校長会との交流会が再開できるところもあり、加入率の回復に結び付くものと思われる。

新たに群馬県教育委員会との連携を強化することにして、県理事会の折に県教委より情報提供をいただくことにした。市町村教委に対しては、「教育の日制定」「教育の日推進」に向けて交流をした。今後に向けても、創立六十周年記念事業の企画ができ、関東プロ群馬大会の準備も始まるなど、活動内容が充実できた。

未来を見据えて歩む

神奈川県連合退職校長会

会長 川端 重義

一、教問研・講演会の

全ブロック開催

神奈川県連合退職校長会では
コロナ感染症が5類に移行した
ことにより、毎年、県下7プロ
ックに分けて実施してきている
教育問題研究協議会・講演会の
開催が、全ブロックで実現しま
した。

3年振りに、各界の専門的な
ご講演をとおして視野を広め、
その生き方を学びました。

また、これからの時代を担う
教員養成の立場から、やりがい
のある教員の仕事を体験的に学
ぶ高等学校の教員講座開設の取
り組みも紹介されました。

退職校長会も学校の教員が生
き生きと誇りをもって働くこと
ができるようにサポートする退
職校長会でありたいと思ってい
ます。

二、予算執行の見直しに向けて

会員の減少・退会者の増加に
伴い、会費の減少は深刻です。

令和4年度から、会計検討委
員会を立ち上げ、検討を重ねて
まいりました。会費の値上げを
しないで事業活動をスリム化・
支出項目の見直しと削減を進め
ております。

○会員数の推移・収支の推移
○会議費・事務費・事業費・
積立金等の見直し

今後の財政状況を県連退全体
で共通認識し、各事業等に関わ
る部会での財政基盤確立に取り
組んでいます。

三、結成六十周年記念事業

準備委員会の立ち上げ

令和7年度の結成六十周年記
念に向けて「未来を見据え、共
に歩む県連退」をスローガンに
準備委員会を立ち上げました。

新入会員数の減少・途中退会
者の増加・デジタル化への取組
等、大きな転換点を迎える中で、
全地区が、力を合わせて意義の
ある周年行事にしていきたいと
思っています。

学校支援活動

教育なにわ会

会長 辻 治

教育なにわ会は、大阪市を含
む大阪府下全公立小・中・義務
教育諸学校退職校長会です。

役員は、本部役員、会長と副
会長・書記・会計・会計監査各
2名の9名で、常任理事12名、
理事71名で活動をしています。

本部事業として、総会と講演
会等各種事業を展開しています。
また、地区に分かれての事業も
実施しています。そこで、令和
5年度講演会では、新型コロナ
ウイルス禍の影響で躊躇してい
た活動を復活していこうとい
う意図から、学校現場からの様々
な要望に応えようと学校支援活
動をしている堺市と和泉市の報
告をしました。

和泉市では、平成29年に、学
校の多忙感が非常に大きくなっ
てきている実情を少しでも軽減
すべく、学校支援部会(学校サ
ポートネットワーク『ないス』)

を立ち上げて活動を開始しまし
た。「口は出さない」「前へ出
ない」「気をつかわさない」等
をモットーに活動しています。

活動内容は、校区探検の見守り
・学校田の指導補助・作品展な
どの受付管理等です。

堺市では、令和3年度、学校
園支援事業、現場から気楽に相
談でき、会員は喜んで楽しく活
動したいとの願いで、「きらく
サポート」という愛称をつけて
立ち上げ、令和4年度、スター
トしました。活動の成果として、
校長相談、登校見守り、校区巡
回、職員室の留守番、行事への
参画、表彰状の筆耕、理科素材
の提供等です。

サポートの基本的なスタンス
として、要請に基づいて、可能
な範囲でサポートします。専門
性・能力を重視した活動をし
ます。児童生徒や保護者に直接か
かわらない支援です。あくまで
も無償のボランティアです。今
後も活動を活発にしていきたい

学校支援や地域貢献活動の

充実をめざして

鳥取県退職校長会

会長 中川 俊隆

鳥取県退職校長会は、長年教育に携わってきた経験を教育現場に還元し、学校や地域の支援・貢献活動を通して、子どもたちの健全な育成に寄与したいと考えて活動しています。

近年、教育を取り巻く環境は厳しくなっていますが、学校が抱えている課題の改善をめざして行っている「県教育委員会要望」もその活動の一つです。要望書提出にあたっては、各支部ごとに地域の実状を把握し、より具体的で緊急性の高い問題に絞って要望するように努めています。なお、県教育委員会回答については、退職校長会会報で全会員にお知らせしています。

また、県教育委員会、小・中・高・特別支援及び義務教育学校現職校長会と退職校長会が一堂に会して、情報交換を行う「教育懇談会」を開催していま

す。「教育懇談会」では、県教育委員会が進めようとしている

施策や学校の現状を聞き、退職校長会ができる支援・貢献活動について協議しています。今年

は、コロナ禍のため、4年ぶりの開催となりましたが、県教育委員会、現職校長会から多くの参加があり、鳥取県教育の方向や課題を共有する良い機会となりました。

その他、近年増加している県外出身新規採用者に対する支援・相談活動など各支部ごとに行っている活動もあり、各支部の活動をまとめた事例集を発行し、効果的な活動を県全体に広げるように努めています。

しかし、会員の高齢化、新規加入率の低下など、会の基盤にかかわる課題も懸念されています。退職後の生きがいにつながる活動や福利厚生活動の充実とともに、退職校長会設立の原点に立ち返り、活動の目的や退職校長会会員としていかに活動していくか真剣に考えていくことが大切であると考えています。

本県退職校長会の

組織と活動状況について

長崎県退職校長会

事務局長 松田 行雄

本県の退職校長会は、公立の幼・小・中・高校（1支部のみ）の退職校（園）長で組織され、現在の会員数は、1636名である。

本会は、郡市を母体に、離島3支部を含む13支部で構成されている。そのため、県レベルでの活動には、結構な予算の裏付けが必要となる。

ここ最近のコロナ禍で、ほとんどの行事・会合が中止に追い込まれていたが、ようやく復活し、県レベルでの会議として、常任理事会を3回、理事会を1回、支部事務局長会を1回、定例総会を1回それぞれ開催している。

また、「教育の日」事業にちなむ活動として、長崎県教育委員会が設定し県下公立の小・中・高校で実施される「長崎っ子の心を見つめる教育週間」とし

ての学校公開時に、各支部毎に退職校長会員が学校を訪問して学校や家庭・地域と関わりを深めるといった学校支援活動に力を入れてきた。コロナ禍で、休止状態であったが、ほぼ復活している。

また、会員の親睦と福祉増進を図る活動として、年1回本部主催事業としてグラウンド・ゴルフ大会を開催。壹岐・対馬・五島の各支部からの参加も多数あり活況を呈する活動である。

令和5年度の定例総会大村大会では、懇親交流会も復活し、従来の大会へと復活しつつある。課題としては、新入会員の加入率が、突然の70%台へ急落してから何とか、80%へと復調したものの、定年延長制度の出現で、この先の見通しがきかなくなってきたことである。従来通り、満60歳の時点で勧誘するようにしたものの、果たしてどれくらいの新入会員が入会してくれるのか、全く予見できない。大きな危機感を持って見守っていると

令和6年度 文部科学省予算案

—— 初等中等教育局関係の概要 ——

会計部長 三上 裕三

政府は令和6年度の教育関係予算案を決定しました。以下、主として初等中等教育局関係予算の中で教職員定数改善等に関する予算案を中心に、その概況を報告します。

一 教師等の働き方改革の加速化、処遇改善、指導、運営体制の充実
(文部科学省初等中等教育局財務課資料)
(義務教育費国庫負担金) (1兆5627億円) (412億円増)
公立の義務教育諸学校の教職員の給与費について都道府県及び指定都市が負担した経費の3分の1を国が負担する。

● 教職員定数の改善	+123億円(+5660人)
● 定年引上げに伴う特例定員	+93億円(+4331人)
● 教職員定数の自然減等	▲168億円(▲7776人)
● 教職員の配置見直し	▲12億円(▲550人)

(1) 小学校高学年における教科担任制の推進 (+1900人)
優先的に専科指導の対象とすべき教科 外国語、理科、算数、体育

- (2) 少人数によるきめ細かな指導体制の計画的な整備 (+3610人)
- 小学校における35人学級の推進 (+3171人)
- 教育課題への対応(発達障害、外国人児童生徒等) (+439人)
- (3) 補習等のための指導員等派遣事業 121億円(+30億円)
- 教員業務支援員の全小・中学校への配置 (281000人)
- 学習指導員等の配置 (110000人)

○ 副校長・教頭マネジメント支援員の配置(新規) (1000人)

二 GIGAスクール構想の着実な推進と学校DXの加速 (29億円) (4億円減)

- (1) GIGAスクール運営支援センター整備 (5億円)
- (2) GIGAスクールにおける学びの充実 (32億円)
- (3) 学習者用デジタル教科書の導入 (17億円)
- (4) 次世代の学校・教育現場を見据えた先端技術・教育データの利活用推進 (14億円)

三 教育課程の充実、特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進 (25億円)

- (1) 次世代を見据えた教育課程・指導方法等に関する先導的研究開発 (0.6億円)
 - (2) 特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進 (0.8億円)
 - (3) 理数教育の充実のための総合的な支援等 (19億円)
 - (4) 小・中・高等学校を通じた英語教育強化 (3億円)
- 新時代に対応した高等学校改革の推進 (8.5億円)

四 新時代に対応した高等学校改革推進事業 (2.2億円)

- (2) マイスター・ハイスクール(次世代地域産業人材育成刷新事業) (2.5億円)
- (3) WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業 (1.8億円)
- (4) 高等学校DX加速化推進事業(DXハイスクール) (2.2億円)

五 幼児期及び幼保小接続期の教育の質的向上 (22.5億円)

- (1) 幼児教育の質の向上 (5.6億円)
- 幼保小の架け橋プログラム事業
- 幼児教育に関する大規模縦断調査等

(3) 幼児教育の質の向上を支える教育環境の整備
 〈補助率1/2〉 (3.5億円)

六 現代的健康課題に対応するための健康教育の推進 (6.3億円)

(1) 学校保健の推進 (5億円)

- 学校保健推進体制支援事業、学校健康診断情報のPHR (パーソナルヘルスリコード) への活用推進事業等 (1.3億円)

(2) 学校給食・食育の充実

- 食の指導改善充実事業

七 誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校、いじめ対策等の推進 (8.85億円)

(1) 専門家を活用した教育相談体制の整備・関係機関との連携強化 (86.8億円)

- 不登校児童生徒に対する支援推進事業

- スクールカウンセラーの配置充実・スクールソーシャルワーカーの配置充実・24時間子供SOSダイヤル等 (0.5億円)

(2) いじめ対策・不登校支援等に関する調査研究 (0.5億円)

八 特別支援教育の充実 (4.8億円)

(1) インクルーシブな学校運営モデル事業(新規) (0.8億円)

(2) 医療的ケアが必要な児童生徒等への支援 (4.0億円)

(3) ICTを活用した障害のある児童生徒等への支援 (1億円)

- 教科書デジタルデータを活用した拡大教科書、音声教材等普及促進 (2.7億円)

(4) 特別支援教育の支援体制等の充実に資する施策 (1.5億円)

九 道徳教育の充実 (4.3億円)

(1) 道徳教育アークカイブの充実 (2.7億円)

(2) 道徳教科書の無償給与(小中学校分) (40億円)

十 子供の体験活動の推進 (1億円)

(1) 健全育成のための体験活動推進事業 (1億円)

(2) 小・中・高等学校等における起業体験推進事業 (2.7億円)

十一 キャリア教育・職業教育の充実 (27億円)

(1) 将来の在り方・生き方を主体的に考えられる若者を育てるキャリア教育推進事業

(2) マイスター・ハイスクール(次世代地域産業人材育成刷新事業) (29億円)

十二 学校をプラットフォームとした総合的な子供の貧困対策の推進等 (29億円)

(1) 教育相談の充実 スクールソーシャルワーカーの配置充実 (23.5億円)

十三 要保護児童生徒援助費補助 (4.265億円)

(1) 高等学校等就学支援金交付金等 (4.090億円)

- 高等学校等就学支援金交付金

- 高等学校等就学支援金事務費交付金 (1.47億円)

(2) 高校生等奨学給付金 (20億円)

(3) へき地児童生徒援助費等補助金 (4.71億円)

十四 義務教育教科書の無償給与 (4.71億円)

〈令和6年度児童生徒一人当たりの平均教科書費〉

小学校用教科書 4266円(一冊あたり443円)

中学校用教科書 5899円(一冊あたり571円)

十五 地方教育行政の推進 (3.1億円)

〔令和6年度東日本大震災復興特別会計予算(案)〕 (3.5億円)

〈初等中等教育局関係分〉

児童生徒等の心のケアや教育支援等 (26億円)

- 緊急スクールカウンセラー等活用事業 (15億円)

- 被災児童生徒に対する学習支援等のための教職員加配 (11億円)

就学支援 (7億円)

- 被災児童生徒就学支援等事業

復興を支える人材の育成など地域における暮らしの再生 (2億円)

年金改定の経緯

生涯福祉部 鴻田 好通

本年1月、総務省は令和4年度の消費者物価指数を公表した。それによると前年度比2.5%の上昇であった。これを踏まえ厚労省は令和5年度の年金額を改定した。3年ぶりの増額も実質目減りなどと言われるがその改定は以下二つのルールに拠っている。

①前年度の物価指数や賃金変動に応じての改定。

- ・ア賃金変動率が物価変動率を上回る場合、
 - ・67歳以下は賃金変動率で改定
 - ・68歳以上は物価変動率で改定
- イ賃金変動率が物価変動率を下回る場合。

- ・67歳以下も、68歳以上も賃金変動率で改定

②マクロ経済スライドによる調整。

ア物価変動率と賃金変動率がプラスの場合、スライドで調整。イ年金額がマイナスの場合、スライド調整は行われず翌年以降に繰り越し（キャリアオーバー）される。

【改定の参考指標令和5年度】

- a 物価変動率、2.5%。
- b 賃金変動率、2.8%。
- c マクロ経済スライドによる調整率は▲0.6%（前年度までの未調整分▲0.3%を含む）。

結果、令和5年度の改定は

- ・67歳以下は2.8%－0.6%＝2.2%
 - ・68歳以上は2.5%－0.6%＝1.9%
- となった。このマイナス0.6%はマクロ経済スライドの調整分である。

【令和4年度の改定】

- ・参考指標（令和4年度）
- a 物価変動率、▲0.2%。
- b 賃金変動率、▲0.4%。

c マクロ経済スライドによる調整率は▲0.3%。この結果、令和4年度の改定では、67歳以下も68歳以上も、賃金変動率により前年比0.4%の減額となった。そして年金減額の為、マクロ経済スライド調整は行われずキャリアオーバーとなった。マクロ経済スライドによる調整は、保険料水準を固定し、マクロで見た給付と負担の変動に応じて給付水準を自動的に調整する仕組みなのである。

我が国の公的年金制度は賦課方式を採っている。その時々々の現役世代が納めた保険料（他に税金・積立金等）によって、高齢者世代や障害者、遺族への年金が支給される社会全体の支え合いを基本に運営されている。

【年金を支える高齢者の暮らし】

国民生活基礎調査（厚労省）によれば、令和4年6月現在、全

国の世帯総数は5431万世帯。高齢者世帯（65歳以上の者のみ）は1693万1000世帯で全世帯の31.2%を占めている。世帯所得金額の構成割合からみると最多は稼働所得世帯73.2%、公的年金・恩給の受給世帯は20.1%で2番目となっている。

高齢者世帯の所得では公的年金・恩給の受給世帯が62.8%と多く、次いで稼働所得世帯25.2%となっている。

また、公的年金・恩給を受給している高齢者世帯の中で公的年金・恩給の全所得に占める割合が100%の世帯は24.9%（令和2年度分）となっている。つまり年金・恩給受給の高齢者世帯の1/4は、年金・恩給だけで暮らしているということである。

公的年金制度が老後生活の保障において重要な役割を果たしている。

国会議員への陳情

す。

教育は国の礎であり、子供一人一人の学びを保障し令和の学校教育の充実・振興を図っていくためには、教育現場に行き渡る大胆な財政支援、とりわけ「教員不足」の解消、優れた教職員

の確保が不可欠、喫緊の課題です。私たちが全国連合退職校長会は、四十七都道府県の会員八万五千余名の総意として、左記事項を強く要望いたします。特段のご高配をお願い申し上げます。

務実態調査等を踏まえた処遇の改善、給与水準の向上に尽力されたい。

令和5年12月15日(金)に、「教育振興」「教育の日」に関する要望書を持って衆参両院の議員会館を訪問し、文部科学大臣盛山正仁、副大臣青山周平、同今枝宗一郎、政務官山田太郎、同安江伸夫、衆議院文部科学委員会委員長・理事、参議院文教科学委員会委員長・理事の方々

の確保が不可欠、喫緊の課題です。私たちが全国連合退職校長会は、四十七都道府県の会員八万五千余名の総意として、左記事項を強く要望いたします。特段のご高配をお願い申し上げます。

①第八次教職員定数改善計画を策定し、小学校高学年の教科担任制を充実するための各教科の専任教員を配置すること。

方改革」の実現を図るため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、部活動指導員、教員業務支援員、ICT専門スタッフ等の配置により「チーム学校」を充実し、教員の長時間勤務の解消、本務に専念できる勤務環境の整備促進に尽力されたい。

次を通りである。

②「個別最適な学び、協働的な学び」を実現するため、中学校において三十五人の少人数学級に引き下げることを。

③一人一台学習端末機周辺のICT環境を整備促進するとともに、「オンライン学習」に有効なデジタル教材や生成AIの活用について検証を急ぐこと。

五 未だ復興途上にある東日本大震災・原発事故をはじめ、全国各地で続発している地震、豪雨等で被災された地域の復興・教育再生のために尽力されたい。

日頃から、教育の振興に対して心強いご支援をいただき感謝申し上げます。

④発達障害等、特別な支援を必要とする児童生徒の多様な学びの場を充実・整備するとともに、特別支援学校設置基準に拠る施設整備の整備を促進すること。

四 「更なる学校における働き

方改革」の実現を図るため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、部活動指導員、教員業務支援員、ICT専門スタッフ等の配置により「チーム学校」を充実し、教員の長時間勤務の解消、本務に専念できる勤務環境の整備促進に尽力されたい。

次代を担う子供たちの健やかな成長は全ての大人たちの願いであり、子供たちが全国どこに生まれ、どんな家庭に育ったとしても、等しく良質な学校教育を受けられるようにすることは、私たち大人、そして国の責務で

二 教員不足の解消、意欲と情熱のある優れた教職員を確保するため、人材確保法の趣旨や勤

四 「更なる学校における働き

方改革」の実現を図るため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、部活動指導員、教員業務支援員、ICT専門スタッフ等の配置により「チーム学校」を充実し、教員の長時間勤務の解消、本務に専念できる勤務環境の整備促進に尽力されたい。

次代を担う子供たちの健やかな成長は全ての大人たちの願いであり、子供たちが全国どこに生まれ、どんな家庭に育ったとしても、等しく良質な学校教育を受けられるようにすることは、私たち大人、そして国の責務で

二 教員不足の解消、意欲と情熱のある優れた教職員を確保するため、人材確保法の趣旨や勤

四 「更なる学校における働き

方改革」の実現を図るため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、部活動指導員、教員業務支援員、ICT専門スタッフ等の配置により「チーム学校」を充実し、教員の長時間勤務の解消、本務に専念できる勤務環境の整備促進に尽力されたい。



子供たち一人一人に対するきめ細かな教育の実現と
学校における働き方改革の推進等を求める全国集会開かれる

令和5年11月14日（火）の午後6時から、「子供たち一人一人に対するきめ細かな教育の実現と学校における働き方改革の推進等を求める全国集会」が星陵会館で開かれた。

参加者は、教育関係23団体の代表者が約300人だった。全連退からは田中昭光会長ほか4名が参加した。文部科学省からは盛山正仁文部科学大臣、青山周平副大臣、安江伸夫政務官が出席、

子供たち一人一人に対するきめ細かな教育の実現と

学校における働き方改革の推進等を求めるアピール

次代を担う子供たちの健やかな成長は、すべての大人たちの願いです。子供たちが全国どこに生まれ、どんな家庭環境で育ったとしても、等しく良質な学校教育を受けられるようにすることは、私たち大人、そして国の責務です。

すべての子供たちの豊かな育ちと学びを保障するためには、学校の指導・運営体制の充実やICT教育環境の整備等、新しい時代の学びの環境整備を進めることが不可欠です。

とりわけ、勤務実態調査で明らかになった長時間勤務の実態や

いわゆる「教員不足」の発生など、教員を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあり、持続可能な学校の指導・運営体制の構築に向け、学校における働き方改革の推進をはじめとした教員を支える環境整備により、教職の魅力を向上させ、教員に優れた人材を確保することは急務となっています。

政府においても、骨太方針2023の中で、「働き方改革の更なる加速化、処遇改善、指導・運営体制の充実、育成支援を一体的に進める。」との方向性を打ち出しているところであり、スピード感をもった改革を強く期待しています。

以上のことを踏まえ、私たちは日本のすべての人々に、次の事項の実現を強くアピールします。

一、個別最適な学びと協働的な学びを実現するため、中学校・高等学校も含めた少人数学級の計画的な整備を図るとともに、教科指導の専門性を持った教員による小学校高学年の教科担任制の推進などに向け、教職員定数の速やかな改善を行うこと。

一、右の定数改善に加え、教員業務支援員の全校配置をはじめとする支援スタッフの充実や学校マネジメント体制の強化により、教員が教員でなければできないことに全力投球できる環境を整備すること。また、いじめ、不登校などの深刻な状況を踏まえ、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置やSNS等を活用した相談事業など教育相談体制を充実すること。

一、意欲と情熱をもって教育に取り組む優れた教職員を確保す

るため、人材確保法の趣旨や昨年度実施した勤務実態調査の結果を踏まえた教員の処遇改善に努めるとともに、教育の機会均等とその水準の維持向上を図るため、その根幹となる義務教育費国庫負担制度を堅持すること。また、地方財政を圧迫し、人材確保に支障を生じたり、地域間格差が生じたりすることのないよう、義務教育費国庫負担金及び地方交付税の財源確保を行うこと。

一、一人一台端末環境における本格的な教育活動が全国の学校で展開される中、すべての子供たちの学びを保障し、より一層質の高い教育を実現するため、運用面への支援も含めた学校のICT環境の整備充実を進めること。

一、教育投資は未来の日本への先行投資であり、国の最重要事項であることから、右に掲げる諸方策の実現にあたっては、既存の教育予算の削減や付け替え等によるのではなく、計画的・安定的な財源確保を行うこと。

令和五年十一月十四日

子どもたちの豊かな育ちと学びを支援する教育関係団体連絡会

日本PTA全国協議会、日本教育会、全国市町村教育委員会連合会、全国都市教育長協議会、中核市教育長会、全国町村教育長会、全国連合小学校長会、全日本中学校長会、全国公立小・中学校女性校長会、全国特別支援学校長会、全国連合退職校長会、全国高等学校校長協会、全国公立学校教頭会、全国特別支援教育推進連盟、全国へき地教育研究連盟、日本連合教育会、全国養護教諭連絡協議会、全国公立小中学校事務職員研究会、全国学校栄養士協議会、日本教職員組合、全日本教職員連盟、日本高等学校教職員組合、全国教育管理職員団体協議会

各地の会報紙より



宮崎県退職校長会会報

「芳馨」第99号

おばあちゃんの

手縫い雑巾

東諸支部 齊藤 正健

平成十二(二〇〇〇)年四月、私は分校をもつ都農町立東小学校(宮崎県)へ校長として赴任しました。

着任して間もないころ、校長室に大きな手提げ袋を手にされたおばあちゃんが訪ねてこられました。袋の中には雑巾が一五〇枚ほど入っていました。いろいろな端切れを使い、一針一針、実に丁寧に縫ってありました。

「これは私が手縫いしたものです。子供たちにお渡しください。毎年学校に届けています。私は小学校でいじめに遭い、本当につらい思いをしました。この雑巾がはじめの明るい学校、つ

くりにも役立てばうれいしです。分校にも届けています。もし私が死んでも来年分まで作っているから大丈夫です」

そう話すおばあちゃんの指には、針タコができていました。胸がいつばいになった私は、

職員朝会でこの雑巾を各担任に配り、おばあちゃんの話を伝えました。担任たちも「実にきれいに縫ってあります。ずいぶん時間がかかったことでしょうね」「これだけの端切れをどうやって集めたのでしょうか」「おばあちゃんが子供たちをどれほど思っているかがよく分かりました」と感じ入ったようでした。ほどなくして、子供たちが書いたおばあちゃんへのお礼状を、各担任が次々と持ってきました。一年生から六年生まですべての子供が、その子なりの表現で心を込めてお礼を述べています。おばあちゃんの優しさが子供の純真な心に響いたからでしょう。感激した私はお礼状を持って全校朝会に臨みました。

「これはみなさんが書いたお礼状です。おばあちゃんも偉いけれど、みなさんもとっても偉いよ。先生も真心いっぱいのお礼状を読んでいたら涙が出てきました。おばあちゃんにお送りするだけでももったいない。みなさんにも紹介したいと思ってね。各学級から一人だけですが、担任の先生に読んでもらいます」

お礼状を読む先生も、聞いている子供たちもニコニコ顔です。とてもうれしい気持ちで一日が始まりました。



新潟県公立学校退職校長会

「会報」第67号

筆と共に

新潟支部 吉田 富貴子

『起』私が人と競えたことは、習字や硬筆のみでした。

そこで、大学は書道科に進み、墨まみれの4年間を過ごし、卒業間近には、個展『起展』を開きました。起承転結の『起』で

す。その後、個展を三つ開くとは難しかったのですが、筆と共に歩み続けています。

『承』小学校の先生となり2校目で、再び筆を持ち始めました。

1年生を担任した時、1枚の紙に、大好きな子どもと一緒に、筆で表現しました。題名は「ほの字」です。印は、子どもと私の拇印を全て押しました。大好きな作品です。子どもとの時間を楽しんでいただけの能天気な時代でした。

『転』転勤を重ね様々な経験をし、学び多き時代でした。

多くの壁にぶち当たり、右往左往する日々でした。私は、幸せ者で、多くの師と出会い、苦しい時には導いていただきました。

た。悩んで顔を歪めたり、見通しがもて笑みを浮かべたりしながら、結果を求め続けた時代です。この頃は、筆を持つ時間も限られていました。「顔」という作品は強弱でリズム感もあり結構好きな作品の一つです。

『結』現在、退職して5年目となりました。

表したい語句も変わっています。左の写真の語句は、母の遺した川柳です。きつと視野が狭い私への教えです。左手に持っている筆は、書の恩師の遺品です。今後は、皆様から頂いたものを大切にし、筆と共に生活する時間を大切にしていきたいと思えます。

「顔」



大分県退職校長会

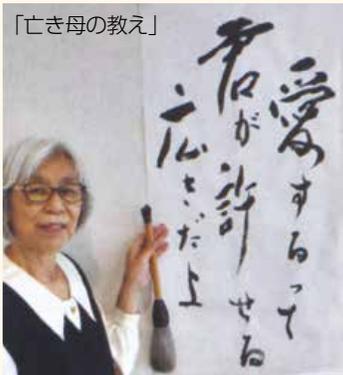
「会報」第181号

健康麻雀始めました！

豊後高田市 瀬口 尚之

豊後高田市退職校長会では、厚生活動としてランドゴルフ大会と囲碁将棋大会を開催してきました。しかし、囲碁将棋をたしなむ会員が減って、大会への参加者が激減してしまいました。やむなく囲碁将棋大会の開催をあきらめることになりました。それで、厚生活動としては、春・秋のランドゴルフ大会だけになりました。

そこで、厚生活動として、『麻雀』ができないかと考えましたが、麻雀はなんとなくマイナスイメージが強く、退職校長会としては、ふさわしくないかも知れないとして躊躇していました。ところが、数年来、高齢者の脳トレとして、麻雀が見直され、「麻雀は、手先や脳を使うながら、人とおしゃべりをする事で、心も体も健康を目指せるも



「亡き母の教え」

のである」と認識されるようになりまし

麻雀を退職校長会で開催するにあたり、次の点を考えました。

- 一、昼間の明るい時間に
 - 二、お金をかけないで
 - 三、教育の殿堂である教育会館で開催する
- の三点です。

教育会館理事長に恐る恐る切り出した所、快く了承してもらい、退職者OBが教育会館に集うことを喜んでくれています。

早速麻雀卓を購入し、教育会館の一室で、開催にこぎ着けました。「麻雀をするのは、何十年ぶりかな」「ああーチョンボした」と言いながら、楽しい一時を過ごすことができています。まだ麻雀大会を開くまで、メンバーが多くありませんが、集まって近況を聞き合うことがとても良い厚生活動になっていきます。今後は、開催日を定例化して、多くの愛好者が『健康麻雀』を楽しめるようにしていきたいと考えています。

愛知県退職校長会



「会報」第49号

コリウス

元 名古屋・村雲小 鈴木 篤

普段、全く気にも留めないホームセンターの園芸コーナー。

その日も、通り過ぎるつもりでしたが、何かが違っていました。高さ十五cm程の植物に目が留まりました。えんじ色の葉に薄緑色の縁取りの観葉植物。プ



どうした？



元気に育って

レートには「コリウス」と書かれていました。でも、元々園芸に興味のなかった私は、それっきり忘れていました。

数日後再び園芸コーナーを通りかかり「そういえば…」と見に行きました。相変わらずの姿を見ていた内に何ともかわいく思えて、つい一株買って帰宅しました。

日に日に大きくなる姿に「こんな小さな葉が出た」とニヤニヤする自分がいました。

ある夏の夕方、帰宅してみると：元気なはずのコリウスが力なくぐったりしているではありませんか。鞆を置くのも忘れ、大慌てで水をあげ、「頼むから頑張つて」と祈りました。三分程して見に行くと：なんと、思いきり葉を広げたコリウスがいました。その時の安堵感たるや…。

コリウスは私の新たな一面を教えてくださいました。まだまだ私の知らない私がいるようです。探していこうと思います。

徳島県退職校長会



「会報」第101号

物作りに学ぶ

三好地区 新久保 由美子

平成26年3月に退職して、はや10年が経とうとしています。現職時には、山が嫌で町に家を建てた私が、今では夫の実家である山の中の暮らしを楽しんでいます。

朝焼けの美しさ、雲海とまではいきませんが霧に浮かぶ幻想的な山々、天空に輝く無数の星と、山暮らしには多くの良さがあります。夏でもエアコンなしで生活できる山のすばらしさを友人に強調しますが、あまり共感を得られません。

実際に良いことばかりではありません。毎日勢いよく成長する草との戦い、動物に狙われるための柵作り、それでもイノシシに粟を食べられたり、カラスにスイカをつつかれたり、と大変なことはいっぱいあります。でも、

負けずに野菜作り、花作りに精を出している毎日です。

もう一つの趣味として、物作りにはまっています。大阪からUターンをして、住宅設計やリフォームをしながら物作りの教室を開いている師匠のことを知りました。使い捨て時代に物を大切に、廃材を生かした物作りをしている事に共感をして通い始めて2年。義母の使っていた三面鏡の鏡を利用した壁掛け鏡、昔の和ダンスの引き出しを利用した机、縁台のリメイク、廃材やドラム缶を利用した机・椅子などたくさん作品が出来上がりました。

まだまだ師匠の技とアドバイスと道具がないとうまくできないのが正直なところですが、自宅に作業場(名付けて「楽創庵」)まで作ってしまいました。自分が手を入れて作った物には愛着がわき、長く大切に使用していきたいと思っています。



和歌山県教友会々報

「教友」第209号

悲喜こもこも

AREに向けて

和歌山市 坂本 記美子

WBCでの日本チームの優勝に始まり、バスケットボール、バレーボール、日本シリーズでの阪神の優勝(ARE)で終わった二〇二三年。「ヤッター」と叫ぶことの多かった年でした。

「今の若者は…」という言葉に耳にすることがありましたが、大谷翔平さんを始めとして、次から次へと日本の若者が海外で花を咲かせています。野球・サッカー・バレー・バスケット等私達に感動する場を与えてくれました。日々感謝感激で過ごされました。ありがとうございます!!

二年前に主人を亡くしました。介護の為に通い続け、それが無くなった時の喪失感は、今でも忘れられません。

「憂きことの尚この上に積れかし、限りある身の力試さん」この言葉を胸に、意識のない主人

の病床で「きつと良くなる」と言い続けた二年間でした。

「ひとつぶの葡萄を吸って夫一步」このリハビリの頃は今でも時々思い出します。

あれから二年。毎日のお墓参りで「大谷さんがホームラン王」「阪神優勝」等亡夫に話しかけています。今は、教友会や俳句・絵画・ボウリング等で出会う方々との交流が心の支えとなっています。多くの方々との出会いが私の宝物。

『友というお宝想う去年今年』二〇二四年はA.R.E.O.O.を目指して頑張ります。

岐阜県退職校長会

「会報」第204号

他の職種では

味わえない幸せ

山県市支部 和田 全弘

大阪のホテルに夕食を予約した。各席にシェフが一人ずつ付いてくれるという豪華さだ。思わずシェフに写真をとっても良

いか聞くと「どうぞ。」と言われ、「どこからおいでですか?」と尋ねられた。「岐阜だよ。」と答えると「和田先生!」と言われ驚いてシェフの顔を見た。何と

高富中の教え子だった。その晩は最高の夕食になった。彼は、その後ホテルから独立し梅田近くに店を構え、ミシュランに載るほどの料理人になっている。

この五月、高富中のPTA総会での講話を校長に頼まれた。大勢の前で話をするなど久しぶりで、力を入れて話した。私は断続的に十八年間高富中に勤務したので、多くの保護者ばかりの教え子たちだったようだ。

後で校長から『和田先生、元気で良かった』と皆さん話してましたよ。」と言われ、話の内容はほとんどどうでもよかったのだと察知した次第だ。

私の自慢は、町で教え子に出会った時、まるで昨日も会ったかのように話しかけてくれることだ。他の職種では味わえない幸せがある。

五反田だより (事務局)

新年・令和六年辰年を迎え、今年が良い年でありますようにと、お屠蘇をいただき、近所の神社にお参りをしたり、初ゴミ拾いをしました。

コロナもようやく五類に移行し、今年はマスクを外して安心して生活できるかと思っていま

したが、まだ油断はできない状況が報告されており、とりあえずマスクはしておこうかと考えています。また、コロナだけでなくウクライナやイスラエル等、世界各地で紛争もあり、悲しい

光景をニュース等で度々目にいたしました。一刻も早い争いの終息を願わずにいられません。

涙を流す悲しい顔、とりわけ小さい子供たちが負傷し泣いている姿はたとえようもありません。

皆で仲良く生きていく社会を創っていかなくてはならないと強く感じ、実践していかねばならないと思います。

そして、一月一日の午後四時

十分、驚きと恐怖の能登半島地震の発生です。震度7の大地震と津波ということで、石川県を中心に富山県、新潟県、福井県等、大被害となりました。二百名以上の方がお亡くなりになり大勢の方が被害にあわれ、家屋の倒壊や火災被害等々、ニュース画像等で悲惨な光景を目にいたしました。

お正月早々何ということかと、辛く悲しい災害となってしまいました。自然とはいえ悲しく厳しい現実と言葉を失いました。

一刻も早く、一人でも大切な命を助けて欲しいと願わずにいられません。救助隊の皆様や支援員の皆様のご苦勞に感謝いたしますと共に我々にできることを

していければと思います。

東日本大震災や熊本地震、阪神・淡路大震災等、過去の大震災の被害等にも想いを馳せ、自然への備えやお互いの協力・支援を大切に生きていかねばならないと痛切に感じています。

(F・T)

◇1月

9 教育課題委員会

10 教育振興部会

12 部長会

22 部長会

26 やよい会

29 文科省予算説明会

◇2月

2 部長会

9 第2回財務状況健全化検討会議

13 第5回常任理事会

14 広報部会

19 広報部会

26 広報部会

28 部長会

組織対策検討会議

◇3月

5 第2回副会長会

11 教育課題委員会

13 教育振興部会

編集後記

○元日に起きた能登半島地震により甚大な被害を受けた地域の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。そして、一日も早く復興できますよう、お祈りいたします。

○国会議員への陳情は、久しぶりに議員事務所を訪問し、手渡しすることができました。

○今回は、各地の会報紙からの記事を多く転載させていただきました。

○本年度最後の会報を無事発行できました。今回も皆様方のご協力で、原稿がスムーズに集まりました。ありがとうございました。

全連退会報 (231号)

発行 令和六年三月十五日
発行所 東京都品川区東五反田
五二一三三三〇八

全国連合退職校長会
電話 〇三三四四二八七六八

FAX 〇三三四四二八七六八
Eメール info@sementai.org

振替口座 〇〇一九一四四七二〇
〇責任者 田中昭光

印刷 株式会社 信行社
電話 〇三三四三三三六二二